



WSC 日本語ボランティアとの出会い

理事（東京都杉並区）

NPO法人ワールドステイクラブが発足25周年を迎えるにあたり、今まで様々な活動に従事されてこられた方々に感謝と共にお祝い申し上げます。

日本語ボランティアを知る

私がWSC日本語ボランティアを知ったのは、24年位前の新聞記事でした。どのように書いてあったかは、残念ながら記憶していませんが、大いに興味を惹かれすぐに入会しました。それが、日本語ボランティアとの出会いでした。

当時の私は仕事で多忙な日々を送っていましたので、毎月の例会には時間を調整しても年5~6回ほどの出席でした。現地に行かれた方々の経験談を楽しく拝聴し、私もボランティアをするんだという自信の夢を膨らませていきました。

それから10年後、私は退職をしました。そして、マレーシア・コタキナバルで、念願の最初の日本語ボランティアを始めました。

コタキナバル・サバ校は思い出いっぱい

私にとり最も思い出が深いのは、2回目にコタキナバル・サバ校を訪れた3ヶ月間でした。職員室に机を用意してくださり、本当の先生になった気分でした。ある時校長先生に呼ばれ、2日間Japan Dayをやるように言われました。

日本語担当のN先生とM先生に相談をして、茶道、盆踊り、金魚すくいを演目にし、パーティー料理には海苔巻きを用意しました。

面白かったのは、金魚すくいでした。体育館の片隅に大きめの石を丸く並べ、その中に厚めのビニールシートを敷いて水を張り池を作りました。金魚はどうするのだろうと心配していましたら、N先生がマーケットで小さめの魚をたくさん買ってきて、水に放ちました。金魚すくいの準備完成です。道具は、こんなこともあろうかと私が日本から持参していました。

金魚すくいが大好きな私は、時間を作り駆けつけ池を覗きました。すると魚がないのです。びっくりして先生に尋ねたところ、魚たちは外に跳ねてしまったとか。生徒たちが、つまんで池に戻そうとしていました。池が浅すぎたのか魚たちが元気すぎたのか……。

サバ校の時間割は充実



その時の時間割表が残っていました。当然ですが、授業はたくさんあり、さらに休み時間には書道を教えるという慌ただしさでした。コタキナバルにはJCTIC英語学校があり、ここに来られていたA氏にお手伝いをいただき生徒への充実した内容で授業できました。

書道では、左手に筆を持ち書き始める生徒、半紙を横向きに置いて書く生徒、まさに思いもかけぬことがいろいろとあり、直してあげるのも大変でした。文化の違いを感じながら、忙しくも楽しい時間を過ごしました。

私の人生に輝きを

サバ校を去る時の朝礼で、全校教職員生徒たち600人位へのお別れのスピーチをしました。N先生が一文ずつ英語に訳してくださいました。日本語ボランティアとの出会いは私の人生に輝きを与えてくれたと思っています。そしてWSC日本語ボランティアに出会えたことを心から感謝しています。

サバ校のみなさん、元気にしていますか！